

# 原発沖1キロで処理水放出

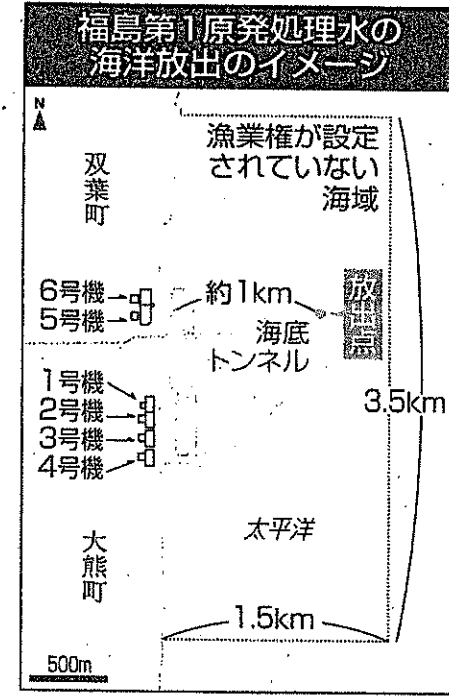
## 東電方針 海底トンネル新設

福島第一

福島第一原発の処理水の海洋放出を巡り、東京電力が約一キロの海底トンネルを新設して配管を通し、沖合で放出する方針を固めたことが二十四日、関係者への

取材で分かった。処理水に含まれる放射性物質トリチウムは基準値以下に薄めるが、沖合放出によってさらに薄めて拡散させ、地元が懸念する風評被害を抑制し

たい考え。



政府は同日、処理水処分の関係閣僚会議を開催。海洋放出で水産物の販売減少や価格下落などの被害が出れば国費で買い取り、漁業者を支援する風評被害対策を取りまとめており、放出への環境整備を進めている。一方で地元や漁業者の反発は根強く、今後の見通しには不確定要素も多い。

海底トンネルは第一原発5号機付近から海底の岩盤をくりぬき、その中に配管を通す。漁業権が設定されていない原発から東約一・五キロ、南北約三・五キロの海域の中心近くで放出する。東電は処理水を大量の海水で薄め、トリチウム濃度を一リットルあたり一五〇〇ベクレル未満にして放出する方針。原発の港湾内の海水は放射性物質を含むため港湾外から取水する。工事が少ななくて済む原発敷地内からの放出も検討したが、トリチウムの拡散を重視した。周辺海域でのトリチウム濃度測定の場合や回数も増やす。計画では、近く原子力規制委員会に審査申請するとともに準備工事に着手。二〇二三年初めに本格的な工事に入り、政府方針に沿って二三年春ごろに放出開始するとしている。